

琉球大学学術リポジトリ

沖縄の伝統芸能における学習過程の研究 (1) : 琉球舞踊の学習内容と方法

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2014-11-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 光子, Kinjo, Mitsuko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/29947

沖縄の伝統芸能における学習過程の研究(1)

～ 琉球舞踊の学習内容と方法 ～

金城光子

Teaching Method of Ryukyuan Dance (1)

Mitsuko KINJO *

(Received 30 April, 1993)

Abstract

The purpose of this paper is to research a practical method of teaching Ryukyuan Dance as a subject at school. In order to achieve both practical and effective system of teaching, systemizing of the warming-up exercises before learning each dance seems important. In this paper, two types of exercises are introduced with pictures:

(1) Body Training---

straight body posture, weight emphasis, balancing, bending of the knees, walking, legs and feet movements and bearing.

(2) Basic movements---

walking techniques, hand thrusts, turnings and feet stamping, standing positions, proper level of the arms and legs, finger forms, wrist movements and others.

はじめに

沖縄の伝統芸能における学習過程について検討していくことは、保健体育科教育における舞踊教育としての琉球舞踊の教材・学習内容と方法について、「伝承—継承—創造—発展」という民族舞踊の個性・固有性と特性、生涯教育と生活化、国際性との関連、そして芸術学としての美学の法則をとらえ、民族芸術学という枠組へ拡大していくことの要素の一つであると思われる。

さらに、琉球舞踊が教育とかかわった場合に、教育の目的であるパーソナリティ形成のどの部分に寄与するかを検討し明確にしなければならない。また、他の諸舞踊と共に、芸術としての舞踊の美学としての見地から、「舞台芸術—演舞し、表現

し、演出する」形式と様式性の学習と、ひいては鑑賞者と踊り手の「信号の送り手と信号の受け手」のコミュニケーションの問題をも追求する基礎を示唆する内容に発展していくことに寄与する目標になるものと考えられる。

1. 教育と踊り：沖縄の子供たちに沖縄の踊りを学習させる

昨今、郷土の子どもたちに“郷土の文化”を教えようという教育団体の声があり、新聞紙上に報じられた。しかも教材として取り入れる初段階に音楽と舞踊を位置づけることの見解も含まれ、琉球大学教育学部の正課として「琉球舞踊」が単位化されてから20年余を経ている。

* Phys. Educ., coll. of Educ., Univ. of the Ryukyus.

沖縄の子どもたちに“沖縄のおどり”を教えることは、諸外国のフォークダンスを踊らせることよりも“踊り体験”としての有効性をもつものと考えられる。身近に聞きなれたリズムに合わせて、見なれた舞踊表現技法を身につけることは“舞踊とは何か”を理解させ、その表現形式を知らせ、しかも踊る^{こころ}を育てる意味をもつと思われるからである。

現在の舞踊教育が、体育科の一領域として芸能文化を身につけさせ、創造的芸術体験をねらいとするなら、各地域で地元の踊りに体育的芸術的見地からの検討を十分加えつつ、踊り教材を精選して指導することは、自己表現としての踊り表現体験にも役立つものと思われる。

教育としての舞踊は、基本的には“踊る”という身体活動を通して舞踊認識へ移行させ、踊る^{こころ}を育てることを出発点とすることが自然な方法である。楽しく踊り・指導することは、舞踊教育の大きなポイントでもある。それ故に、現在「郷土の踊り」の教材化と実技講習会、踊りフェスティバル等も年々盛んに行われている。

児童舞踊を数多く振り付けて、発達過程に応じた踊り体験をさせることも大切な要素である。

2. 舞踊の教育的意義

学習内容と方法を検討する上で、現在実践されている学校における舞踊の特性と目標の位置づけをみることにしたい。さらに、成長発達過程の特色と指導の要点を次のように示すことが出来る。

1. 舞踊は、身体／身体運動による美の形成である。
 - (1) リズミカルに動く楽しさと活動の中に感情を移入する満足感。
 - (2) 美しい身体と身体意識を高揚させる。
2. 舞踊は新しい美的経験による自己形成である。
 - (1) 創造的自己表現の中で、自我の安定と自己を拡充する。
 - (2) ダイナミックな人間交流による、集団的創造活動を行う。
3. 舞踊は身体活動による美的表現活動経験によって、生活を高揚させる。
 - (1) レクリエーションとしての活用による、

積極的な人間交流への適応の手段となる

- (2) 舞踊作品鑑賞の楽しみと美意識を深化させる。

I. 幼児期

- ① 運動的遊びへの興味
- ② 情緒の表現への興味
- ③ 対人関係による集団遊びへの興味
- ④ 運動的な遊びへの興味の持続

〈指導〉

- ① 誰さんと一緒に、どんな集団と共に活動するかという欲求を充たす／所属の欲求
- ② 自己表現と成就の喜びを与える
- ③ 思い切り活動し、技能への力を出し切ること
- ④ 表現を活動的にとらえること

II. 小学校低学年

- ① 動物、物体の動きや形態の模倣への興味
- ② 対人関係による社会性が高まる

〈指導〉

- ① 模倣の中に工夫をさせ、活動的に状態をとらえるように動きを引き出すこと
- ② 模倣の中に工夫をさせるように誘導する

III. 小学校中学年

- ① 表現する素材と身体の動きが均衡の取れた状態になる
- ② 充実した表現運動をし、自然で伸び伸びと活発になる
- ③ 自己を意識し、表現運動に対する自覚をもつ
- ④ グループで組織的に活動する
- ⑤ 役割に従って、まとまりをつけることが出来る
- ⑥ グループ活動の方法を身につけさせる
表現したい題材を明確にさせ、表現する
- ⑦ 内容や、どの様に動きをまとめるかを十分把握させる

〈指導〉

- ① 身体の動きによって表現する態度を作る
- ② 男女差と特徴を十分考慮すること
- ③ 題材の特徴をおさえさせ、そのものになりきって表現する雰囲気をも身につけさせる。

IV. 小学校高学年

- ① 心身の調和的発達が進展する

- ② 個性が芽生え、独自性を持つ
- ③ グループ活動が充実する
- ④ 表現運動による作品の創作活動が可能になる

〈創作舞踊の指導〉

- ① どんな作品にまとめるか構想を明らかにさせる
- ② 題材、テーマをはっきりさせる
- ③ 表現したい内容を具体的にさせ、構成させる
- ④ どんな身体の動きで、どんな空間性にするか/隊形や組合せ、移動の仕方をどうするか決めさせて活動させる
- ⑤ 始める位置やポーズ、出方、終わる位置やポーズ、隊形が主題/テーマにふさわしいように決めさせる
- ⑥ グループ活動の中で、個性が十分発揮されるようにする
- ⑦ 基礎的な動きの練習を十分させ、表現運動の技能を高めさせ、充実した動きによる身体表現を行うようにさせる
- ⑧ 話し合いのしかた、計画や役割分担による学習のすすめ方や態度を身につけさせる

V. 中学校/高校期

- ① 自我意識が高まり、自己や環境に対する批判的態度をとる
- ② 自己主張が強くなる反面、自己蔑視や孤独感を抱く
- ③ 満たされない欲求に対して反抗的態度を取る
- ④ 新しい能力の獲得や多くの経験を求め、理想を抱く
- ⑤ 自己を知り、友人を求め、人間的交流を深める
- ⑥ 美意識や、美的情操が深くなる
- ⑦ 舞踊に対する期待が大きく、美しいスタイルにあこがれ、身体美への欲求が高まる

〈中学校〉

- ① 青年期前期にある女子は、成熟以前の身体の変化(身長や体重の増加)のために、一般的に運動能力の一時的な低下や不器用さが見られる
- ② 舞踊学習においても、不調和な動きや動

作のぎこちなさが現れることがある

- ③ ただし、これらの不均衡を通りこしたあとは、調和のとれた優美な動きを示すようになる

〈高等学校〉

- ① 知的理解への欲求が高まり、深まる時期である
- ② 身体運動では、複雑で高度な運動をリズムカルにできるようになる

〈中学/高校期〉

- ① 舞踊によって、美しい身体づくりを望むようになる
- ② グループ活動に対する意義やグループ表現/創作活動の特徴を理解できる
- ③ 集団の組織的な活動を計画し、協力的に行動できる
- ④ 6~8人の小グループから、学級全体の集団の表現活動ができ、学年全体のマスゲーム(大集団)の作品を完成させる事ができる

〈指導〉

- ① 知的理解を深める
- ② 美的欲求に対応して指導する
- ③ 個人差を十分考慮して対応した指導をする

3. 現代の学校における舞踊教育のねらいと現状

(1) 舞踊学習のねらい

学校教育の中で行われるダンス学習は、ひとつには、「踊りをおどる」という学習の中で、「踊りの技能」と「踊りのリズム」を習得させ、リズムカルに「踊る学習活動」を楽しむことによって、生活の場における踊りの意味や基礎的な知識を身につけさせることである。

また、踊り技能の学習のみならず、人間の普遍性としての踊りを生活の中に取り入れて、踊る習慣や、踊りをみる習慣をもたせ、健康で潤いのある生活を営むことのできる能力と態度を育てることである。

二つめは、「ダンス運動の技能」を習得させるとともに、自然界や日常生活におけるリズムを取り入れて新しい「踊りのリズム」を形成していくという「ダンス運動を再構成」する能力を育てる

ことであり、リズムカルな身体の動きで「創造的に表現する活動」を楽しみながら個性を伸ばす指導もダンス教育の最も重要な課題である。

三つめに、ダンス（舞踊作品）を「見る学習」として楽しむことによって、生活の中で「舞踊を鑑賞する」習慣を身につけさせることも重要な要素としてあげられる。

「踊る学習」が「見せ方」や「見られ方」に重点を置いたものであるとすれば、踊りを「見る学習」は、見る楽しみの中で見方に重点を置いて、どう見るかの学習を通して「美的鑑賞眼」を育てることが大切な内容となる。

踊り（ダンス）教育は「舞踊技能を習得する。」「踊りのリズムを体得する。」「人々の輪の中に素直に入って踊ることができる。」「感情をこめて踊ることができる。」など基本的には「踊る活動」によって“踊るころ”を育て、“踊り”を理解させ、踊りを愛する子どもたちを育てることである。

(2) 舞踊教育の現状

学校におけるダンス教育の現状は、指導者間および指導者個々のダンス学習のねらいの重点の置き方、捉え方、おさえ方が統一的に十分認識されにくい面が多々あるために、そのあり方論や方法論を多様化させているということを確認ことができ、この現状を次のように示すことができよう。

- 1 狭義の芸術舞踊論に基盤を置き、それをねらいとする「形式の創造性」の強調
- 2 踊りをおどる活動をレクリエーションとして位置づけようとする「形式の日常性」の強調
- 3 舞踊を芸能文化として、伝統を受け継ぐことをねらいとする「形式の伝統継承性」の強調

以上のようにダンス教育はそのねらいの強調点やウェートの置き方によって、学習内容や指導の方法論と共に指導者間に多少の相違が生じてきているものといえる。

舞踊の本質性的な問題もさることながら、ダンスが教育の素材として子供たちに何を寄与しようとするのか、また、ダンスが人間の生活とどのような関わりあいをもつのか、ダンスで習得した動き（運動）が日常生活にどのように役立つのか、な

どを再検討する必要性がでてきているものと思われる、学習のねらい、指導の方法論を含めた、ダンス教育の在り方を考える時期にきているものと思われる。

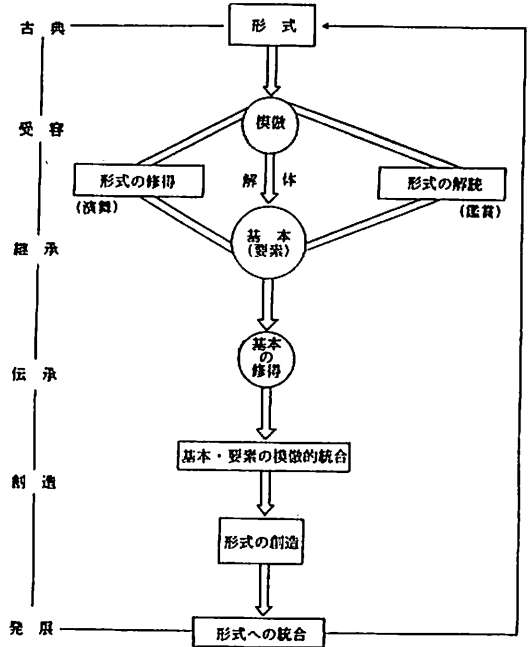


図1 民族舞踊の基本概念

4. 民族の踊り文化の創造と発展のための伝承と継承

周知のように、“基本”とはある目標を達成するためのベースとなるものであり、それを繰り返している間にその目標へ到達する性質を持っている。また、この「基本」は目標を頂点とした三角形の底辺とすれば、目標をどの程度の高さに位置づけるかによって、その底辺である基本の広がりや厚みの程度が決定されるものと考えられる。人間がものを創造する過程の初期の活動は、人々を取り巻くあらゆる環境の中から人間が創り出そうとする目的物に合致したパターンを模倣することから始まる。模倣し、模索が繰り返される過程から次第に一つの様式が整い、最終的には一定の秩序と形式を創造してきたものと解釈できる。このような創造物である形式は人間の生み出した人類共有の文化的産物であり「古典」とみなすことができる。踊り形式（舞踊を創作する）をつくるためには、踊りになりうる形を模倣する

ことを出発点とし、この模倣する過程における形式の演舞(おどる)と鑑賞(みる)によって、(形式の解説、認識、熟知)と習得がなされていくのであり、この段階は、いわゆる踊り形式の「受容と継承」という意味で“型にはまる”段階である。次に、形式を解説して、習得したのちにこの「形式を解体」することによって「基本・要素」を明確に位置づけることが可能となる。この基本・要素は踊りの最大のベースとしての共有財産である。

この基本・要素は^{いっこ}稽古や練習を繰り返すことで習得されるものであり、この過程を経、習得したのちに、基本・要素の「模倣的統合」作業へと発展していき、それが新しい「形式の創造」を可能ならしめるものである。この段階はいわゆる踊り形式の「創造と発展」という意味で“形式から抜ける”過程とみなすことができる。再構成され創造された形式は再び「古典」としての踊り形式へ統合されることになり、いわゆる形式へ帰納していく性質をもつことによって、目標が達成されていく。それらのことをふまえて舞踊における身体表現の「基本・要素」を位置づける図式として提示したのが「民族舞踊の基本概念」の図1である。

5. 教材としての琉球舞踊の学習効果

(1) 民族の踊りの特性

民族の踊り(フォークダンス・郷土の踊り)はその地域の地理的条件、環境条件、歴史的背景、気候、風土、生活習慣、風習、言語や宗教、衣装、音楽、歌などと直接に関わりあい、生活事象や生活現象などが人々の踊りに対する態度をつくりあげ、生活に根づき、様式化され、伝承されるといふ特性をもっている。

その踊りは、自然発生的、素朴性、郷土色、風土と生活感情や伝承性、娯楽性などの内容と特色をもつものである。

言及するまでもなく、沖縄の踊りもこれら民族の踊り(郷土の踊り)の特色性を十分に包含し、人々の生活と歌や踊りの関わりあいは根強く、伝承性の形態をもっている。

踊り文化を身体技能の文化としてとらえ、踊りの基本・要素を明確にすることは、踊り文化の伝承性、継承性、創造性の過程を追求していく上で

重要な課題であると思われる。

(2) 民族の踊り文化を継承することの意義

現代の児童生徒達が価値感と多様化する情報化の中にあつたとしても、原点(固有の表現文化)の認識を広め、さらに深めながら沖縄の固有性をもつ舞踊、又は芸能を正しく楽しく継承させたいものと考えている。和式でもなく、西洋式でもなく、琉球式の風土に根ざした、生活の知恵の特作物としての芸能を、教育の学習の中の特に「舞踊教育」で技を習得し、観ることによって鑑賞眼を養い、美的鑑賞眼を培うことで、“踊る一観る一創る”という芸能を愛する豊かな心情を育てることをも可能であると思われるからである。

王朝文化として様式化された古典舞踊と、年中行事と共に生活化している祭り・庶民芸能にも関心と興味を示させ、国際化時代にふさわしい次代を担う子供たちの感性を高め、深めていくことは人格形成の要素であるものと思われる。

本稿は、次に述べる、琉球舞踊の学習指導の展開方法の中における「指導の実践」として、沖縄の踊りの踊れる“からだづくり”と“基本的技能”の習得をまずとりあげ、①踊りのウォーミングアップとボディトレーニング、②踊りの主な基本動作(手振り、足どり、身振り)などにウェットをおいた「学習内容」と方法を展開することにした。

次回からは、系統的に「舞踊作品」をとりあげて学習を進める方法についての検討結果を取り上げることにしたい。

6. 琉球舞踊の学習指導の展開

踊り教材の指導展開は児童生徒との関わり合い(発達段階)を配慮することはいうまでもないことである。

低学年では踊り方そのものよりも歌を伴う内容が望ましいが、ここでは「花ぬかじまやー」を例にあげた。風車が風を受けてクルクルまわる様子を楽しくながめさせながらかわいらしい表情で踊るように上手に誘導することも必要である。

中学年から高学年にかけては、踊りの初歩的な技能をおさえて、基礎的な技能へ高めていく工夫が必要である。

教材としての踊りを子どもの立場からみた特性

を考え、踊りに対する理解と関心と興味を深めながら生活の中に生かしていけるように留意することも重要な課題だと思われる。そのためには特に、「踊る学習」を楽しませながら技能を習得させる工夫と努力が指導を展開する上で留意されなくてはならない点と考える。

学習指導の展開方法

学習指導の展開の方法は一斉指導からグループ、個人へと進め、分習法—全習法—分習法—全習法という形態で、部分の基礎から全体の踊り方へと進める方法も効果的である。

いずれの踊りの学習の場合もあせらず、ゆっくり、ていねいに説明し、技能を習得させながら、次の点などに留意することが望ましい。

- (1) 視聴覚教材などを通して踊りに対する興味と関心・理解を深める。
(専門舞踊家の舞踊の発表会や郷土芸能を鑑賞させることも学習効果を高める要素である)。
- (2) 踊りの主な歴史的背景や由来などを理解さ

せる。

- (3) 歌詞をおぼえさせ、歌の意味を踊り内容と合わせて理解させる。
- (4) 踊りのウォーミングアップを活用して body training をし、基本的技能を身につけさせる。
- (5) 踊りの主な動作(手振り、手使い、足どり、歩き方、まわり方、突き方)などを十分習得させる。
- (6) 曲を何度も聞かせ、歩・練習とともに踊りのリズムを習得させる。
- (7) 曲に合わせて調子よく踊れるよう誘導しながら踊りをおぼえさせる。
- (8) グループで踊りの特徴を話し合わせ、相互に協力して練習し合うようにさせる。
- (9) 個人的にむずかしい面、やりづらい点や出来にくい箇所を指摘させて、ゆっくり説明しながら踊らせる工夫をすることが望ましい。

7. 琉球舞踊教材の年間指導計画〈例示〉

	幼稚園	小学校	中学校	高校・大学
一学期	[踊りのためのウォーミングアップとボディトレーニング] ○赤田首里殿内 ○いったあんまーまーかいが	○赤田首里殿内 ○いったあんまーまーかいが ○小禄豊見城 ○子守唄。ジンジン ○ちんぬくじゅうしい [踊りのためのウォーミングアップとボディトレーニング]	○安里屋ユンタ ○カチャーシー踊り ○黒島口説 ○秋の踊り [踊りのためのウォーミングアップとボディトレーニング]	○かぎやで風 ○上り口説 ○浜千鳥。前ぬ浜 ○四つ竹 ○若衆こてい節 [踊りのためのウォーミングアップとボディトレーニング]
二学期	○エイサー踊り ○ジンジン ○谷茶前 ○花ぬ風車 ○各地域・郷土の民俗舞踊	○エイサー踊り ○国頭さばくい ○谷茶前 ○ていんさぐぬ花 ○花ぬ風車 ○まみどーまー ○宮古のクイチャー	○エイサー踊り ○谷茶前 ○貫花踊り ○まみどーまー ○宮古のクイチャー ○振りつけ・創作舞踊 ○各地域・郷土の民俗舞踊	○エイサー踊り。カチャーシー踊り。黒島口説 ○谷茶前 ○だんじゅかりゆし ○鳩間節 ○振りつけ・創作舞踊 ○各地域・郷土の民俗舞踊
三学期	学芸会、学習発表における学級単位の演技構成、発表会を計画し、演じ、みる喜びを体験させ、関心と意欲をもちたてる	○安里屋ユンタ ○海のチンボラー ○数え唄 ○カチャーシー踊り ○手まり唄 ○各地域・郷土の民俗舞踊	○四つ竹 ○だんじゅかりゆし ○ていんさぐぬ花 ○鳩間節 ○振りつけ・創作舞踊 ○各地域・郷土の民俗舞踊	○秋の踊り ○天川 ○かせかけ ○加那ヨー。貫花踊り ○振りつけ・創作舞踊 ○各地域・郷土の民俗舞踊
小主な道具使用	風車・小太鼓(パーランクー)・すすき・ザル・擻など	すずき・スティック・パーランクー・ザル・擻・風車・カマ・クワ・ヘラ・手まり・小かご	パーランクー・ザル・擻・貫花・カマ・クワ・ヘラ・四つ竹・手ぬぐい・扇など	扇・四つ竹・パーランクー・ザル・擻・かせわく・花染サージ・貫花など

8. 踊りのためのウォーミング・アップ

ここでいうウォーミング・アップは、踊りを踊る前の準備運動、またはbody trainingとしての性格と基本動作の練習を含めたものとしてかかげたひとつの方法である。

その方法はここにあげたもの以外にいくつか考えられるが、今回は、本稿にとりあげる踊りに関連づけた練習方法の例を示したのである。

また、このウォーミング・アップは、次項の踊りの主な動作、手使い、手足の形などと関連性をもたせ各々の踊りの“手使い”“足使い”などの理解を助けるものに展開させることが望ましいと思う。

基本動作練習は一度きりで終るのではなく、で

きるだけ繰り返し行なうことでからだづくりと基本的な技能の基礎を身につける役目を果たすことになるからである。

ウォーミング・アップの基本は、①姿勢を正す(背筋を伸ばす)こと、②重心を下方(下降)に、しかも一定に保つことを基礎として、③基本動作である、立ち方、歩き方、まわり方、突き方、足拍子の打ち方(踏み方)、④手のあげ方、開き方、手首のこねりまわし、指のまげ方、などが主な要素になっている。本稿では、IとIIに区分し、二種の方法を挙げ、ウォーミング・アップとトレーニング法の中で琉球舞踊学習の技能と技法を体得させ、又、学習の開始と終止の各々に利用できるようにつとめた。

DANCE'S WARMING-UP

This paper deals with two types of warm-up exercises:

1) BODY TRAINING

— straight body posture, weight emphasis, balancing, bending of the knees, walking, legs and feet movements and bearing.

2) BASIC MOVEMENTS

— walking techniques, hand thrusts, turnings and feet stamping, standing positions, proper level of the arms and legs, finger forms, wrist movements and others.

I ~ (1) 踊りのためのウォーミングアップとボディトレーニング法：座位動作

(1) 踊りのためのボディトレーニングの方法① (準備運動と整理運動に用いる)



首の左右振り

首の前後振り

肩と背筋を伸ばす (後) ・ (前)

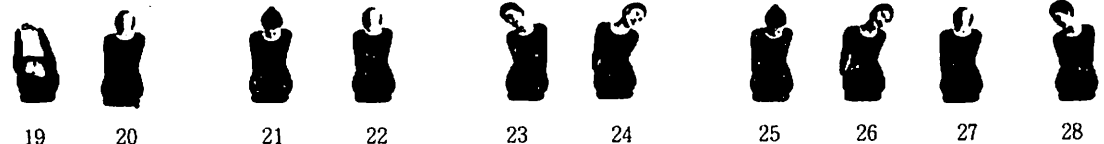


10 両手を後頭へ当て前後に曲げる。

12 13 両手を結んで上に伸ばし首を前後に曲げる。

14 15 左右に曲げて上体を伸ばす。

16 17 18 両手を組んで首を左右に振る。

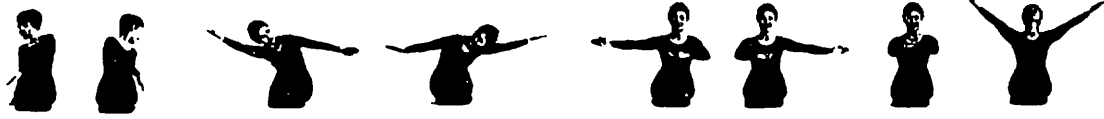


19 20 両手を背中で結び首を前に(床につける)曲げ、後ろにまげる。

21 22 首を前後に曲げる

23 24 首を左右に曲げる

25 26 27 28 首を大きくまわし、両手を後へ強く引く。



29 30 左右に体をねじり両手を床につける。

31 32 両手を肩の高さに伸ばして上げ左右にねじる。

33 34 左手横、右手体前にまげる。

35 36 両手胸抱きパッと勢よく上に開く。



37 38 片手を床におき、顔を天井に向けて左右にまげる。

39 40 片手を床につけ片手を上に伸ばす。

41 42 43 両手を床につけ、前後に深くまげる。



44 45 46 47 48 49 50 両手を床につけ、尻から後へ引き、アゴから前へ押し出す。両手を床に伸ばし、前曲げ、後ろ曲げ

I～(2)踊りのためのウォーミングアップとボディートレーニング法：座位動作と立位動作



1 2
こぶしを握り両手を前にあげ、手首を曲げあげ下ろす。



3 4
手首を前後に曲げる



5 6
指を曲げて頭上に伸ばす



7 8
両手首を曲げて横に曲げ伸ばす。



9 10 11 12
両手首を曲げて押す引く左右



13 14 15 16 17 18
こぶしをにぎり手首を曲げこね回す。左右



19 20 21
両手を腰に、両膝を曲げ伸ばす



22 23 24
膝を曲げ床につけ、1歩ずつ前進



25 26
右左と足を出しかかをつける。



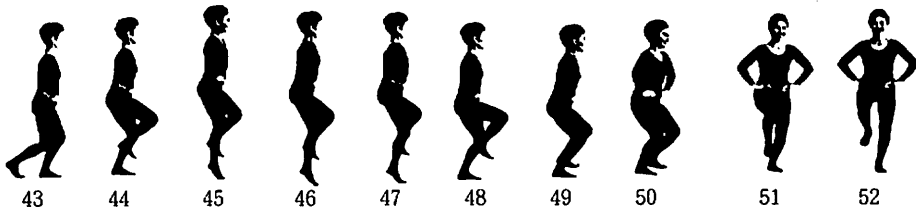
27 28
左、右足腿を高くあげる。



29 30 31 32
右足左足と床をふむ(足拍子)



33 34 35 36 37 38 39 40 41 42
右足又は左足から、ネコとびをする。体、背筋を伸ばす。



43 44 45 46 47 48 49 50 51 52
左右、回る、前後と方向をかえて行なう。

I～(3)踊りのためのウォーミングアップとボディートレーニング法：立位動作



両手を後で結び左右にねじり後ろをみる。



両手を前に組み左右に振る。



両手を上に伸ばし、さらに左右に曲げる。



両手を後頭部で組んで、伸ばす。



両手を背後で組んだまま首をまわす。



左右に首をまわす。



両手を左右に伸ばしたり、手首を曲げたり伸ばしたりして、手首のこねり、回しを十分行なう。



両手をあげ、交互に前後に押し引きながら、すり足回りをする。



男立ちから両膝曲げ伸ばし



右足あげ

左足あげ



右足あげ、足首の曲げ伸ばしをする。



左足も同様

両手首を合わせて、体側に左右移動させ、片足をあげてまわる。



足で床をふむ（足拍子）



両手を体前から、左右横に開いて足拍子



同じく足拍子



腰を安定させて力強く行なう。

I～(4)踊りのためのウォーミングアップとトレーニング法：立位動作



片足を横に上げてとぶ。担し、重心は安定させて行なう。



両手を腰に、前回のネコとびをする。ネコとびをしながら、回る。



ネコとび回り

ネコとび回り



男立ち
両膝曲げ

膝まげ、左右移動

足交差

足あげ

左足あげ、両手左右振り手首
曲げ伸ばし



右足突き（前向き）



右足突き（側面）



左足突き（前向き）



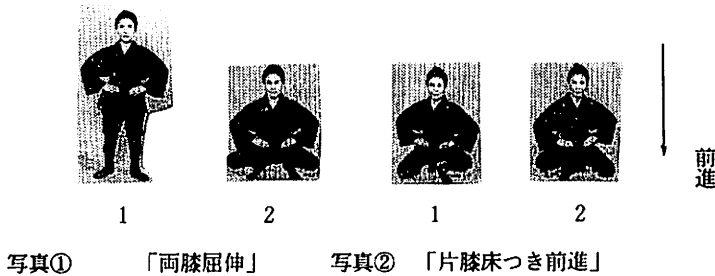
左足突き（側面）



片足曲げ片足前出し
両手こぶし横前突

II-I 踊りのためのウォーミング・アップ

THE WARM - UP EXERCISES



1 両膝屈伸運動 (写真①)

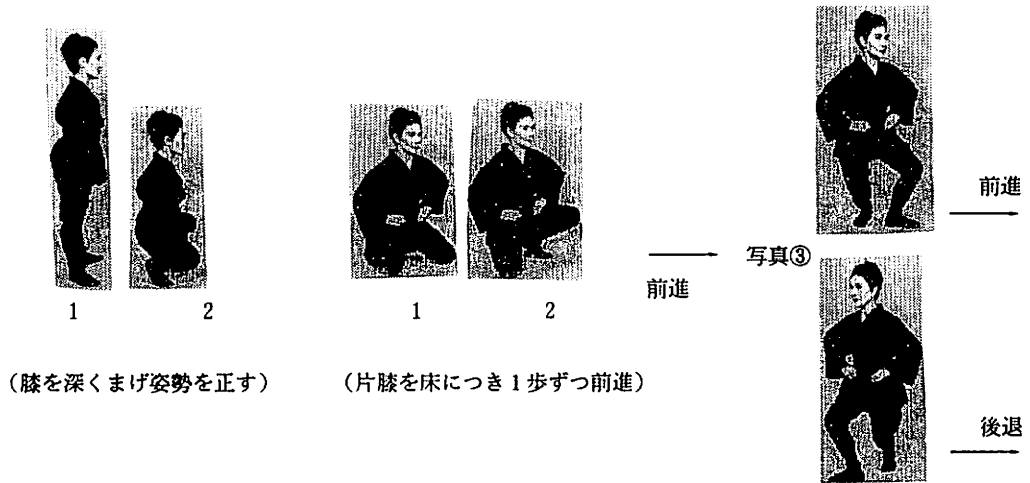
両手を腰にとり、開脚で立つ。この姿勢のまま深く膝をまげて坐り、立つ。背筋を伸ばす。

2 片膝床つき前進 (写真②)

両手を腰にとり、膝をまげて坐り、片膝を床につきやや上体を斜めに向けて背筋を伸ばし、1歩ずつ前進する。

1) KNEE BENDING — from a standing position move the body up and down by repetitious knee bendings.

2) KNEE WALK — kneel on one knee and the other slightly raised, move forward using the knees.



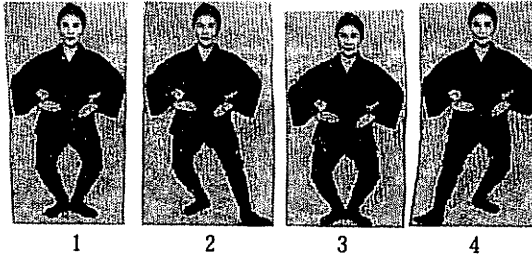
3 両膝まげ前進、後退 (写真③)

両手を腰にとり、両膝を深くまげたまま背筋を伸ばして前進し後退する。

「両膝まげ前進後退」
(背筋を伸ばし、膝を
まげ大きく1歩ずつ進む)

3) WALKING WITH SLIGHTLY BENDED KNEES — bend the knees slightly bearing a straight body then walk.

写真④

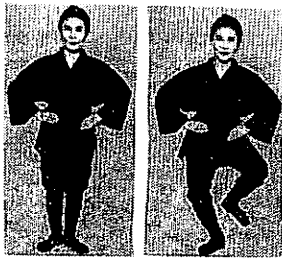


「足の前方、斜方摺り出し」
 (両膝を曲げ足を前方と斜方へ伸ばして出す)

4 足の前方、斜め摺り出し (写真④)

両手を腰にとり両足を揃え、やや膝をまげたまま、左(右)足を前方へ摺り出し、かかをつける。もとに戻し右(左)足を斜前へ摺り出し、かかをつけ、もとに戻す。

4) LEG STRETCHING— with a slightly bended knee position, slide one foot forward and backward and after some counts do the same with the other foot. ***Do the same exercise diagonally.



1 2

写真⑤
 「片足あげ下ろし」



1 2 3 4



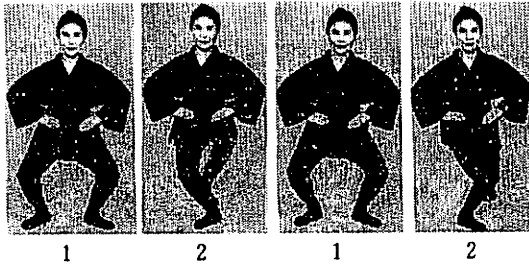
3 4

1 立つ 2 片足をあげる 3 片足あげて膝曲げる 4 片足斜前に出す

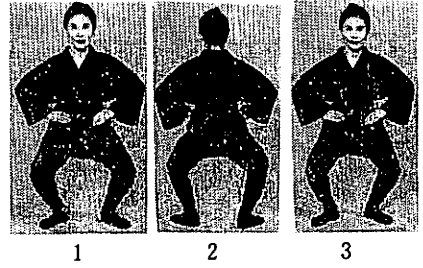
5 膝まげ片足あげ下ろし (写真⑤)

両手を腰にとり、両足を揃えて立つ。このまま左(右)足をまげてあげ、足をあげた状態で右(左)膝をまげ、あげた左(右)足を斜へ出し、かかをつける。

5) LEG RAISE— with a standing position, raise one foot to the knee level, bend the other knee leg slightly then bring down the foot to the side. Do the same with the other leg.



写真⑥ 「開脚屈膝と足あげ」
(開脚して膝を曲げ、伸ばすと同時に片足を上げる。)



写真⑦ 「開脚屈膝回転」
(開脚して膝を曲げ180度回転する)

6 開脚屈膝と足あげ (写真⑥)

両手を腰にとり、両足を開いて膝をまげ、右(左)足を伸ばすと同時に左(右)足をあげて上体をやや斜めに向け、元に戻し、左(右)足を前にあげて元に戻す。

7 開脚屈膝回転 (写真⑦)

両手を腰にとり、両足を開いて膝をまげた状態で180度回転しながら、右(左)側進する。

6) BENDED LEG RAISE — bend the knees slightly to the side then raise one leg to the front maintaining a bended position then down.

Do the same with the other leg.

7) 180° TURNS — with slightly bended knees to the side, make half turns maintaining the same posture using each foot alternately as a pivot point.



写真⑧

「摺り足前進」
足裏で床を摺り歩く



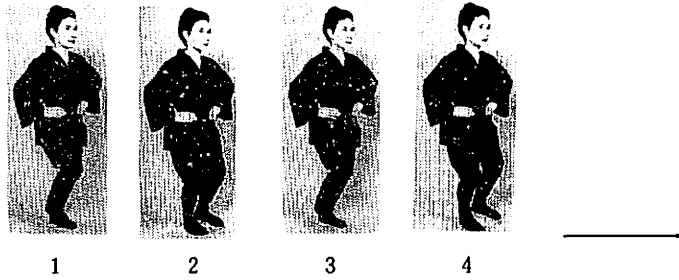
「摺り足前進」

8 摺り足前進 (写真⑧)

両手を腰にとり、やや膝をまげたまま、右足、左足と足裏で床を摺りながら前進する。歩幅はほぼ1足長であり大きく出さないよう注意する。

①右足裏で床を摺って出し(ややつま先が上がる)②つま先を下ろして重心を右足に移し左足かかとをややあげる。③次いで左足を摺り出す(かぎやで風参照)。

8) WALKING PRACTICE — walk by sliding the feet trying as much as possible not to raise the hind part of the foot.

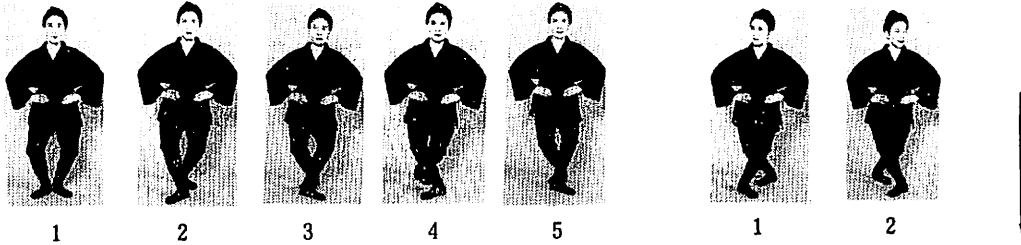


写真⑨「床ふみ前進」(ふみ足歩み)

9 床踏み前進 (写真⑨)

両手を腰にとりやや膝をまげたまま、片足をあげて膝をまげ、床をふみしめて下ろし1歩ずつ前進する(鳩間節、浜千鳥、貫花踊り参照)。

9) STAMPING WALK — with slightly bended knees, walk by stamping the feet.



写真⑩ (A)「足交差前進」

(B)「足交差前進」
(足裏を床につけて足を交差して前進、後退する)

10 足交差前進 (写真⑩)

両手を腰にとり、やや膝をまげ、両足を揃えて立った状態から左(右)足を右(左)足の前に足裏を床につけて交差させて出し、かかとを右足中央(土ふまず)に接近させる(A)次いで;足の交差を深くし、膝を深くまげながら一歩ずつ前進する。

10) CROSS FEET WALK — walk with slightly bended knees by crossing the feet while walking bearing in mind to keep the hind part of the foot to the ground.



「左まわり重心移動と両膝曲げ」

写真⑩

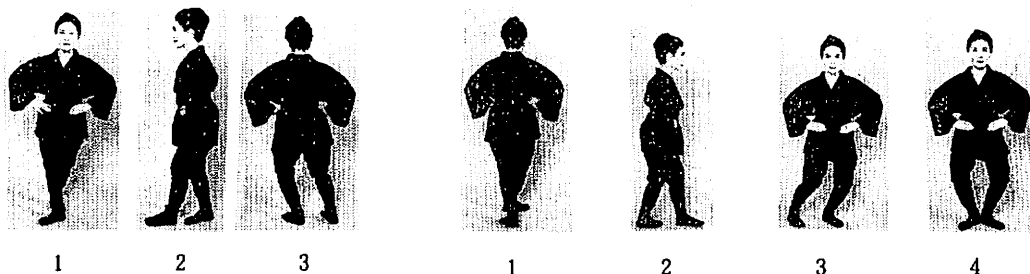
11 左まわり、重心移動 (写真⑩)

両手を腰にとり、①左足を右足前に交差させた状態で出し (つま先を左に向ける)、②左足に重心をかけたまま右足を左足前から左足横へつま先を後ろに向けて摺り出し③右足に重心を移し後ろ向きとなる。後ろ向きのまま再び、①の動作、②の動作を行ない、⑥右足に重心を移しながら前方へ向く。

このまわりの間に左足、右足と歩行を入れて、“左まわり”を繰り返す (かぎやで風、秋の踊り、四つ竹踊り参照)。

11) SMALL TURN PRACTICE (left turn) — place left foot in front of the right with toes pointing left, slide the right foot towards the front of the left, place weight on the right leg and also using it as a pivot point. Repeat the same for the rest.

*** LARGE TURN PRACTICE (left turn) — starting with the left foot, walk around in an imaginary circle.



写真⑪

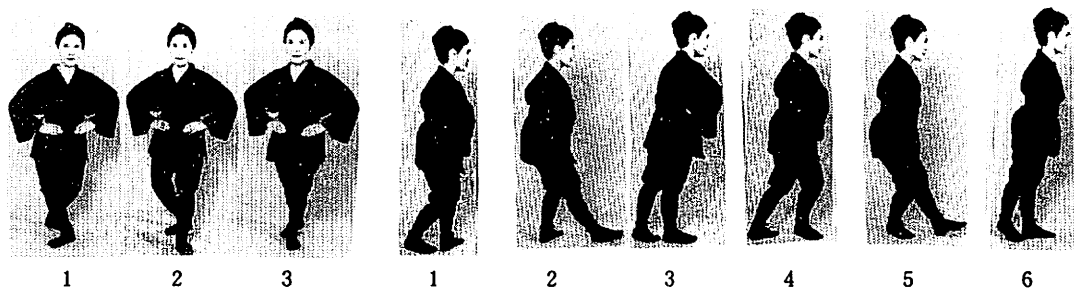
「右まわり重心移動と両膝曲げ」

12 右まわり、重心移動 (写真⑪)

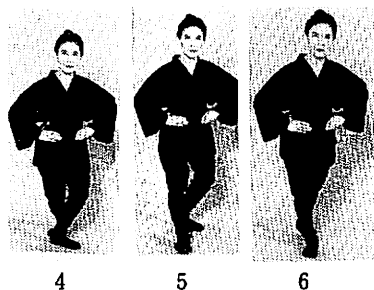
この“右まわり”の方法は、“左まわり”の方法と同様にして①右足を出し、②左足を出し、③左足に重心を移す方法で繰り返す。

12) SMALL TURN PRACTICE (right turn) — do the same sequence as the small turn practice for the left foot and use the right foot this time instead of the left.

*** LARGE TURN PRACTICE (right turn) — starting with the right foot, walk around in an imaginary circle.



「左足突」(前面)



「右足突」

写真⑬～1 「突き足前進」 (側面)
 右足かかとを左側に向けて膝を曲げ、左足を摺り出し、左足に重心を移行しながら右足を左足にそえる次に左足からつづけて行なう。

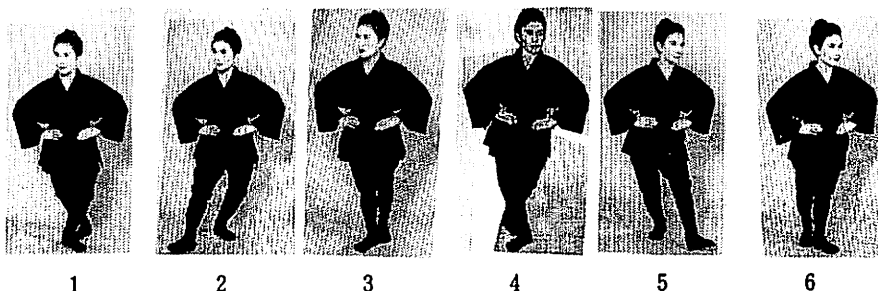
13 突き足前進 (写真⑬～1)

両手を腰にとり、①右(左)足を左(右)足に交差させて出し(つま先外に向ける)膝を深くまげ、②左(右)足を摺り出しかかどをつける。③左(右)足に重心を移行させながら前方へ体を押し出し、右(左)足を左足後にそえる。次いで、左足、右足と交互に突き足を繰り返しながら前進する(かぎやで風、秋の踊り、四つ竹踊り参照)。

13) FEET THRUST PRACTICE — do the cross feet with a slightly bended knee position, thrust forward the hind leg then move the other leg towards the front. Use alternate legs.

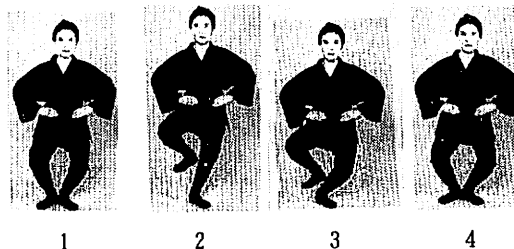
*** Do the same exercise diagonally also.

写真⑬～2



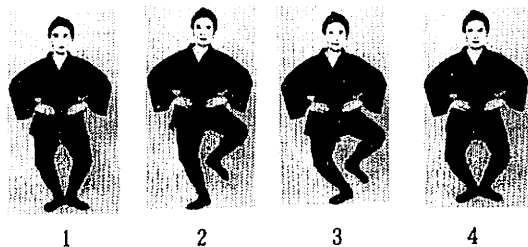
「右斜突」

「左斜突」



(右足あげ)

写真⑭



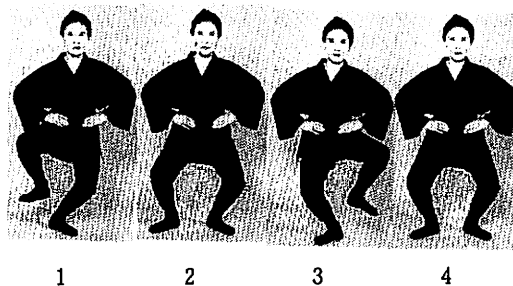
(左足あげ)

「屈膝片足あげ下ろし」
(両膝を曲げ片足をあげ膝を曲げて下ろす)

14 屈膝片足あげ (写真⑭)

両手を腰にとり、①両足をやや開いて膝をまげて立ち、②右(左)足膝をまげてあげ、③足をあげたまま左(右)足をさらに深くまげ、④下ろす。

14) LEG RAISE BOUNCE — with slightly bended knees, raise one leg maintaining a bended position, bounce up and down then back to the starting position.



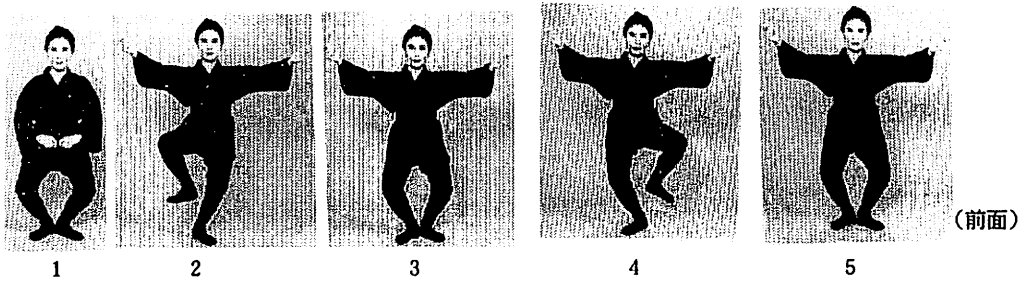
写真⑮

「開脚屈膝足あげ、床ふみ」

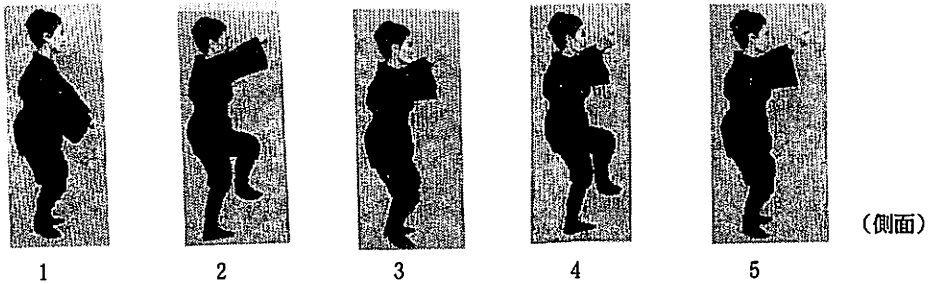
15 開脚屈膝足あげ床ふみ “足拍子” (写真⑮)

両手を腰にとり開脚して膝をまげた状態で、①右足をあげ、②床を強くふみ下ろす。次いで③左足をあげ④床を強くふみ下ろす(鳩間節、秋の踊り参照)。

15) STAMPING PRACTICE — with slightly bended knees, raise one leg bringing it down immediately. Then raise the other and try to create a rhythm.



写真⑩ 「両手こぶし握り左右開きあげ、足拍子」

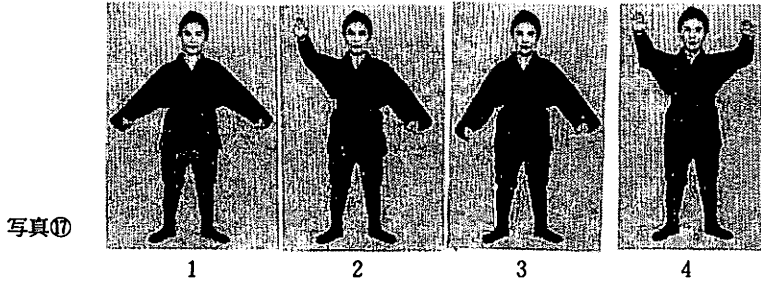


(両手こぶしを握り足を交差させて両手を体前下へ置き、両腕を左右に開くと同時に右、左と足拍子をふむ)

16 両手こぶし握り左右開きあげと足拍子 (写真⑩)

両手こぶしを握り、①右(左)足を左足に交差させて出し膝を深くまげ、両こぶしを体前下に揃える。②右(左)足膝をまげてあげると同時に両手をパッと左右に開き③右(左)足で床を強くふみ、④次いで左(右)足をあげて強く床をふみ下ろす(足を交互にふみかえて足拍子をふむことを繰り返す)(鳩間節、秋の踊り参照)。

16) SYNCHRONIZED MOVEMENT 1 — hands in front of the body and crossed feet, raise hands and at the same time raising one leg, bring the hands to the sides while raising the other leg.

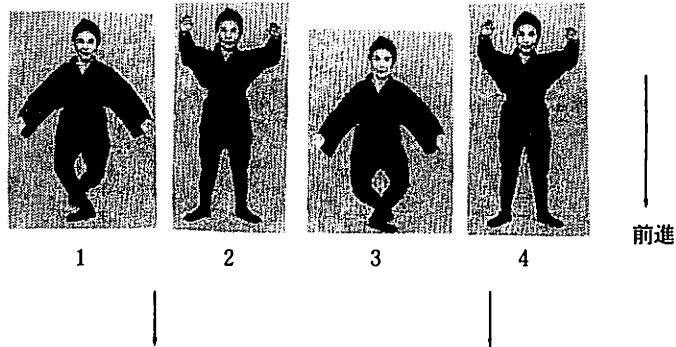


(基本立ち) (右手斜上あげ下ろし) (構え) (両手あげ下ろし)

17 基本立ち(男立ち、八文字立ち)と右手、両手あげ下ろし(写真⑩)

①両足を開いて立ち、両手を前方へ出す。(両肘はややまるみをおび、指先はウエストラインより上がらないように注意する)この姿勢のまま、②右手を右斜上にあげて元に戻す。③両手を斜前上へあげて④下ろす(立つ足の幅は、やや肩幅に保つようにする)(かぎやで風、秋の踊り参照)。

17) BASIC STANDING FORM (male) — feet apart in shoulder width and position the hands at breast level, raise one arm at eye level then down, afterwards raise both hands then down.

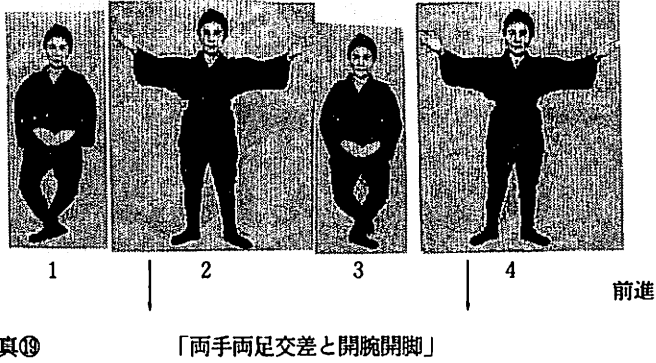


写真⑪ 「両足交差と両腕開き、開脚と両手挙上」

18 足交差、両手左右開きと開脚、両手斜前上あげ(写真⑫)

①左(右)足を右(左)足に交差させて出すとともに両腕を体前下で開き(手の平を前に向ける)
②右(左)足を左(右)足横へふみだして開脚となりながら両手を体前下から手の平を上に向けながら曲線を描いて斜前上へあげ、手首を内側へまわして、手の平を前方へ向ける。1歩ずつ前進しながら行なう。

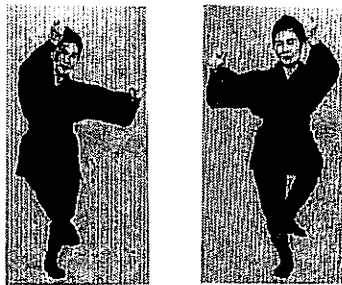
18 SYNCHRONIZED MOVEMENT 2 — crossedfeet position with palms showing up positioned in front of the body, raise hands to eye level and simultaneously feet apart. Do the same with alternating feet.



19 両手両足交差と両腕左右開きあげ、開脚 (写真⑱)

- ①左(右)足を右(左)足に交差させて膝を深くまげるとともに両手の平を開いて体前で交差させ、
- ②右(左)足を左(右)足の横へふみ出して開脚となると同時に両手を体前を通して頭上に引き上げ左右に開いて止める。1歩ずつ前進しながら行なう(かぎやで風、秋の踊り参照)。

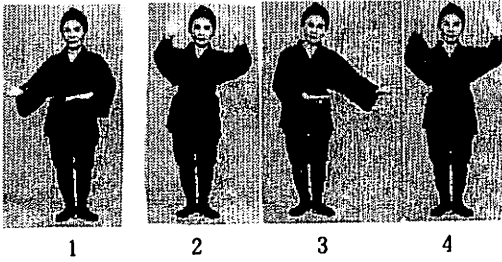
19) SYNCHRONIZED MOVEMENT 3 — crossed feet position with fist hands crossed in front of the body, raise the hands to the side at the same time positioning the feet apart.



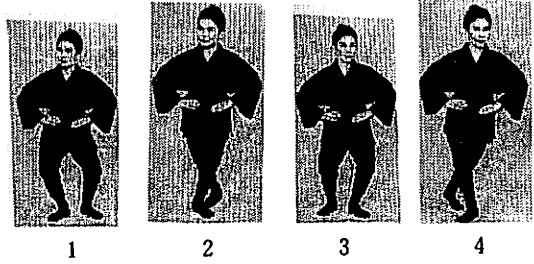
20 両手左右波動と足あげ (写真⑳)

- 両手を斜前上(頭上)で手首のまわしと指のまげ伸ばし手首のこねまわしを行ない、左右に波動させながら片足をあげ、前進したり、まわったり、後退したりする(手の平は左右同方向に向けさせる)

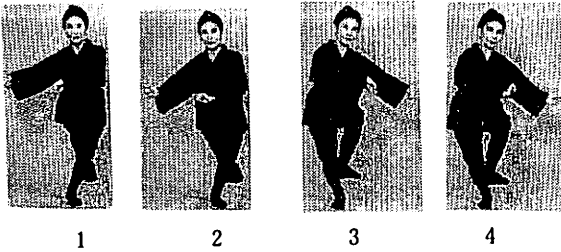
20) HAND WAVE 1 — wave the hands from side to side while raising the feet alternately.



写真㉑ 「両手左右あげ下ろし」



写真㉒ 「両手左右あげ下ろしと片足あげ」



写真㉓ 「左右の足交差」

21 両手左右あげ下ろし (写真㉑)

①両手を揃えて両手の平を上下に向けて右横前に出し、②両手を体前を通して頭上へあげながら左斜へあげ左足から2歩進み手の平の向きをかえて左横前に下ろし両足を揃える。つづけて右斜前進して行なう(最初は、その場で左右横に両手をあげ下ろしを行ない、次に移動を加えて行なう)(浜千鳥参照)。

22 両手横あげと片足あげ (写真㉒)

両手の人差指と親指を結んだまま、①左足をふみだしながら両手右横へあげ、②両手首をまげて手の平を前に向けながら支持脚をまげて止める。次いで、右足で行ないながら、前進したり、後退したり、まわったりする(安里屋ユンタ参照)。

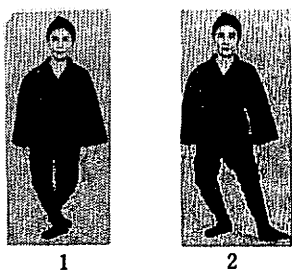
23 足交差とつま先立ち (写真㉓)

両手を腰にとり、①右足を出して左足を交差させると同時に重心をやや上にあげながらかかとをあげて立つ。左右交互にだしながら行なう。

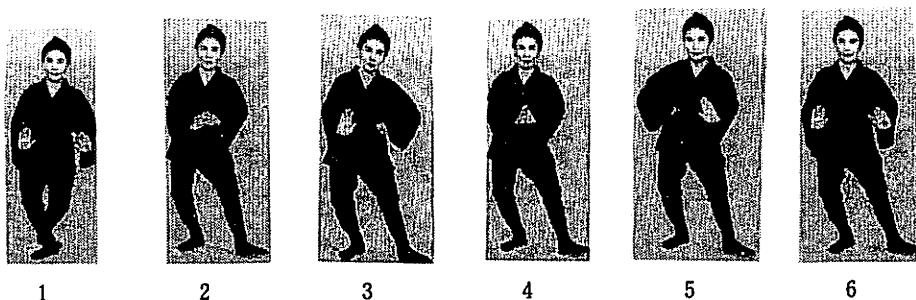
21) HAND WAVE 2 — position the hands in such a way that palms slightly face each other then wave from side to side.

22) HAND WAVE 3 — position the hands on one side and so with a raised leg on the same side, then bring the hands from side to side together with the feet.

23) FOOT WORKS — step one foot and tip toe, and do the same on the other side.



写真㉔ 「女立ち」



写真㉕ 「女立ち、両手前伏だし、拍手、左手腰右手前出、拍手、右手腰左手前出、両手前出」

24 女立ち (写真㉔)

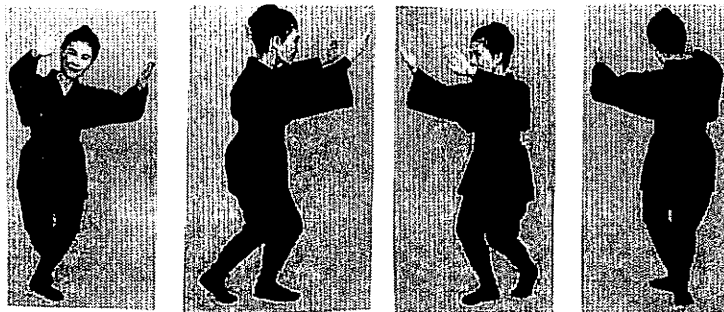
①右足をふみだして(つま先外向け)左足を左斜前に摺り出しながら、女立ちになる。(左足のかかとは右足爪先の延長線上の位置で止めること)(浜千鳥参照)。

25 女立ちで片手と両手まわし前方あげ(写真㉕)

女立ちの方法を行ない、両手首をまわしながら左側から体前へまわしてあげ手の平を前方に向けて止める(手の前方への出し方は、両手を左右横から内側へまわしながら出して、手の平を前方へ向ける方法もある)(浜千鳥参照)。

24) BASIC STANDING FORM (female) with clap — position one knee slightly bend while the other straight on a diagonal position with toes slightly raise then clap

25) THE CLAP — female standing form, clap once then bring the hands in front palms showing up.



写真⑥ 「両手左右振りと右まわり（バランス）」



写真⑦ 「片手こねまわし、足交差」

26 両手左右波動と左右まわり（左右手の平交互回し）（写真⑥）

両手の平を、上下に向きをかえながら頭上で左右交互に手首をまわし、指をまげのばしながら波動させ、右まわり、左まわりを行なう。

右へまわる：右足をふみ出し、左足を右足後にそろえながら両手を右側に波動させ、顔を右に向ける。次いで、左、右、左と交互に出しながら左右に両手を波動させる。

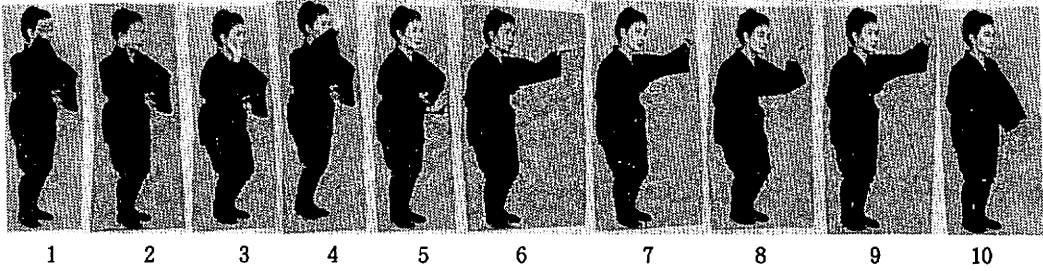
前進、後退などと手首・指のまげ、まわしと波動を行ないながら顔の向きと合致させること。

27 片手こねまわし、足交差（写真⑦）

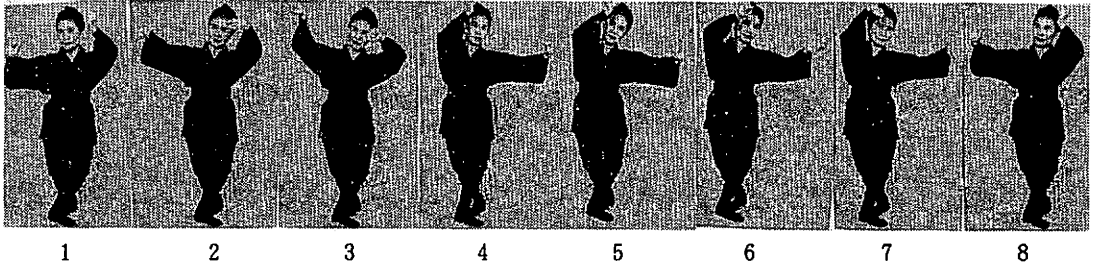
左手首をまげて腰にとり、①右足をだして左足を交差させながら右手を右斜上へあげ、②肘をまげたまま手首をまわし手首をこねる（上体は手の動きと同時にまわし顔の向きと上体、手の平の向きを合致させるようにする）（浜千鳥参照）

26) 2 HAND MOVEMENTS — using the clap exercise, make turns by stamping at the back of one foot and alternate.

27) ONE HAND MOVEMENT — crossed feet with the hind foot slightly raised, position one hand on the waist while the other doing hand turnings.



写真㉔ 「片手こねり押しあげ下ろし」



写真㉕ 「両手左右こねり」

28 片手こねりあげと膝まげ足ふみ (写真㉔)

左(右)手首をまげて腰にとり、①右(左)手を右頭側に肘をまげてあげ、(手の平を顔側に向ける) ②手首をまわし指をまげのばしてこねり、③指を開いて手の平を上に向け、④そのまま頭上へ押しあげて⑤手の平を前方へ向けたまま体前から下ろす、左手で行なう(浜千鳥参照)。

29 両手左右こねり (写真㉕)

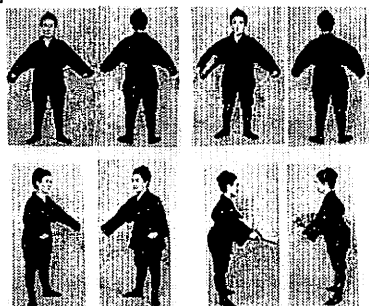
①両手を頭上にあげ、手の平の向きを同一方向にして左右に手首をこねまわす。②“右足床ふみ、左足床ふみ右足前けりあげ” “タンタッ” “タンタッ” と足どりに合わせる。また、左足を交差したまま、両手こねりを行なう(唐船ドーイ・カチャーシー踊り参照)。

28) FRONT “KONERITE” — Do the konerite with one hand. Konerite - palms up, thumb and middle finger together, turn the wrist and palms showing up and bring down as is.

29) SIDE “KONERITE” — do the konerite from side to side. Place one hand at the center of the body while the other stretched to the side then do the side to side konerite. Do with a cross feet position also, the stamping walk. Used in Kachiyashi.

踊りの主な動作

「男立ち」

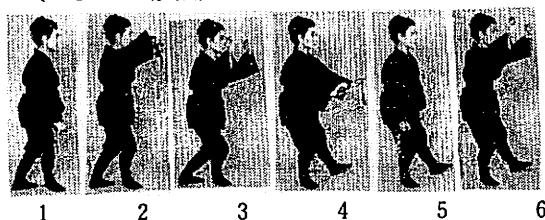


1) (基本立ち 八文字立ち)
(かぎやで風参照)

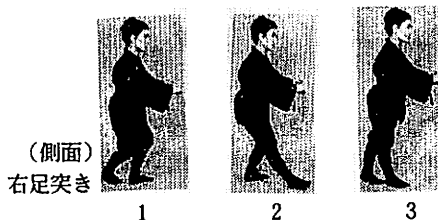
「女立ち」



2) 女立ち (四つ竹踊り参照)



3) 両手こねり押しあげ下ろしと女立ち
(側面) (四つ竹踊り参照)

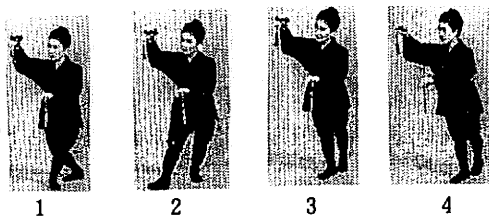


(側面)
右足突き

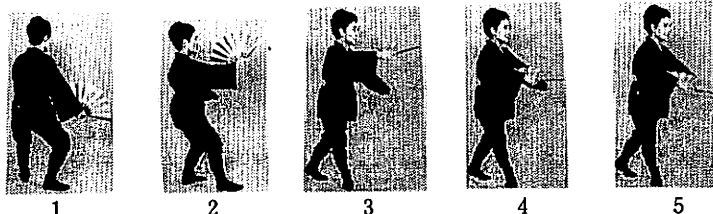
5) 右斜 構え
(かぎやで風、
秋の踊り参照)



(右斜)



4) 右足突き (四つ竹踊り参照)



6) 切り返し構え

切り返し(右側面) (かぎやで風、秋の踊り参照)

1) MALE STANDING FORM

Front View : Back View : Right Side View : Left Side View

2) FEMALE STANDING FORM

Front View : Back View : Right Side View : Left Side View

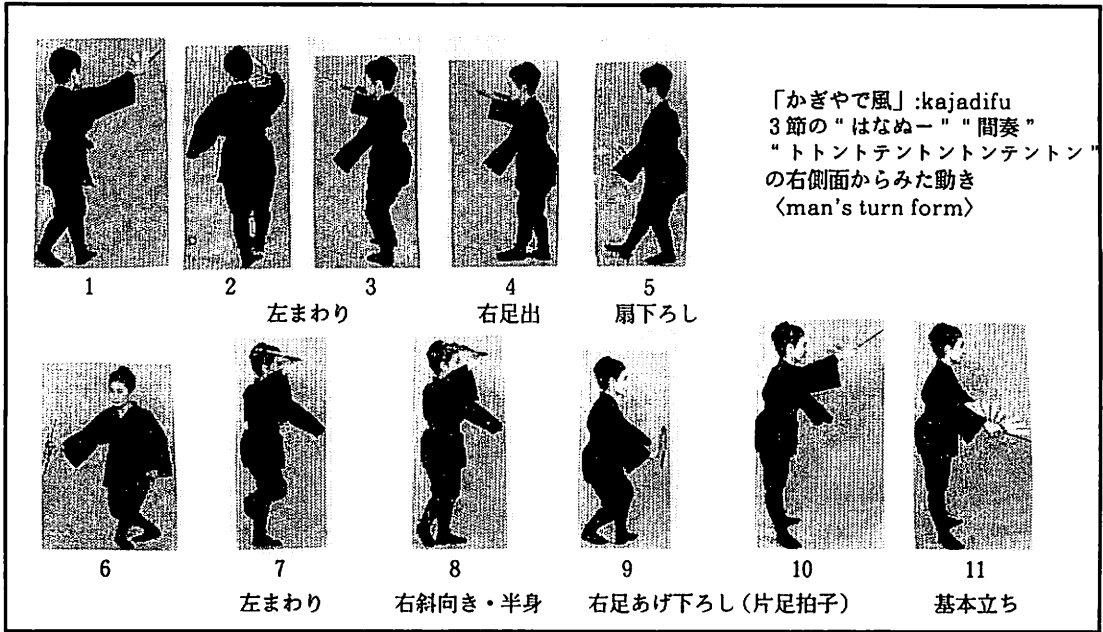
3)~4)

The Konerite and the female standing form : Right Leg Thrust (Side View)

5) Right Hand Diagonal Form : Front View : Side View

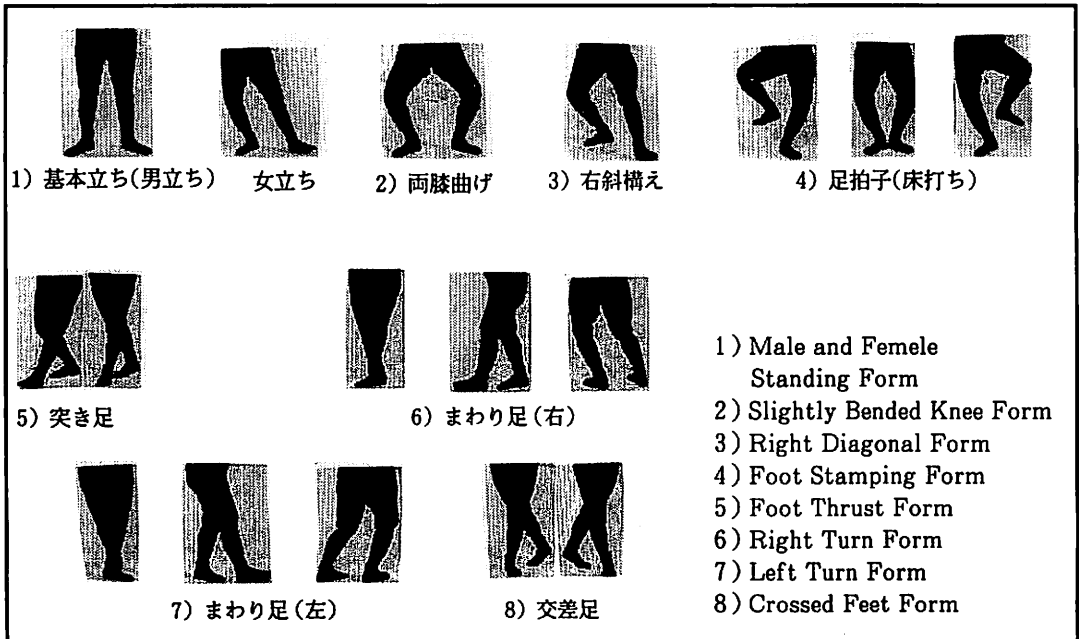
6) "Kirikaeshi" Form and the Movement.

Right Hand Raise and the Left Turn



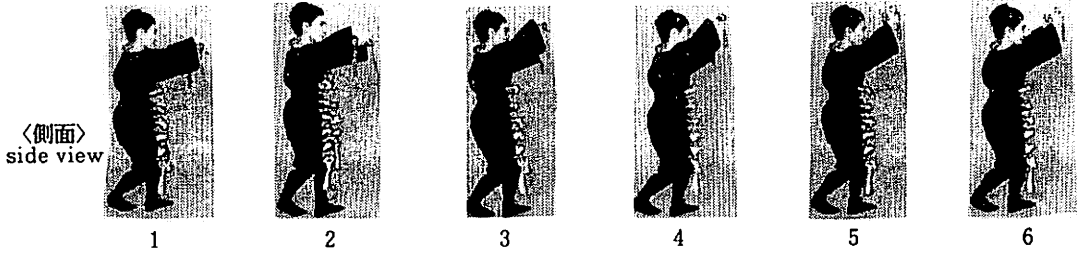
- | | |
|---|--|
| 1) Left foot in front of the right | 7) Step the left foot while lifting a fan horizontally |
| 2) Slide the right foot towards front | 8) Lift the right foot and Stamp the right foot |
| 3) Place weight on the right leg | 9) Lower the fan vertically |
| 4) Step the left foot | |
| 5) Right foot thrust while bringing down the right hand | 10) Straighten legs with the fan up |
| 6) Lean forward placing weight on the right foot | 11) Do the male standing form |

LEG AND FOOT WORKS

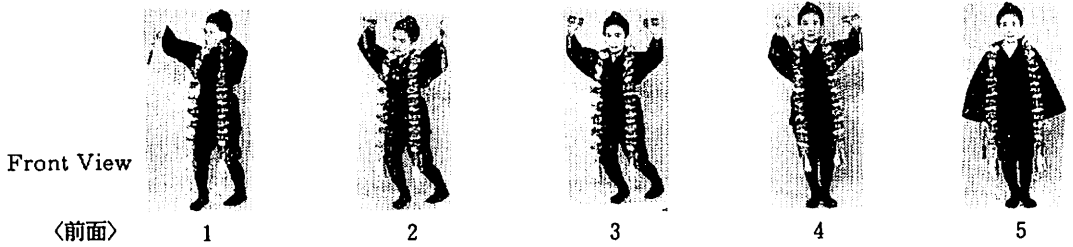


KAMIDI — do the konerite, twisting the wrists ending palms up.

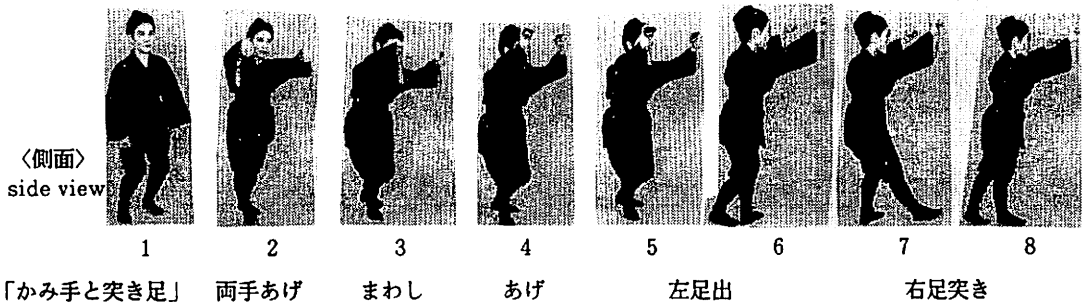
カミ手: 両手こね回しあげ



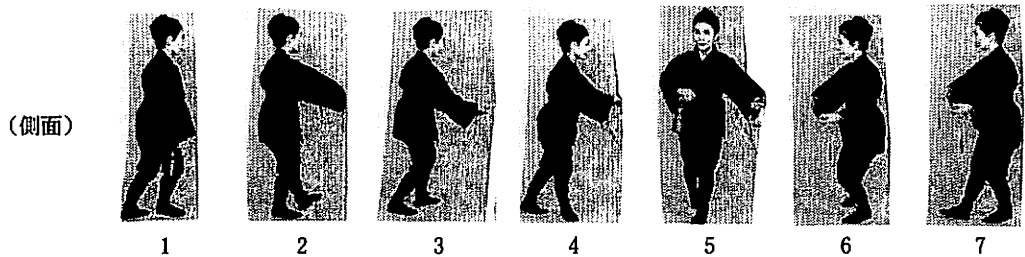
「四つ竹持ちかみ手」 kamidi」



(貫花踊り、南嶽節参照)



The "kamidi" with "yotsudake" Use alternate legs.



「女踊り・切り返し右回り」

FEMALE "Kirikaeshi" Form and the Movement. (right turn)

"kamidi" with "yotsudake"

"kamidi" with bare hands

Side View

Front View

1) 2 Handed "koneri" Turns

2) Right Hand "koneri" Turn

「両手こね回し」「右手：片手こね回し」



1

2

3

4

5

1) "両手こねまわし"



1

2

3

4

5

2) "右手こねまわし"



1

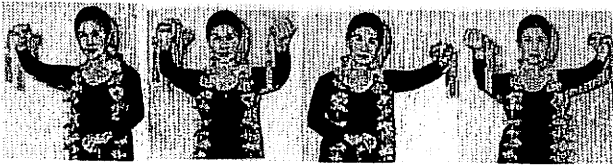
2

3

4

5

手と手首のこねまわし (浜千鳥参照)



1) 両手構え 両手あげ下ろし
(貫花踊り、四つ竹踊り参照)



2) 両手交互上下あげ下ろし
(貫花踊り参照)

1) Right Hand up Left Hand front down Form

Alternate Palms Form

2) Vertical Round Hand Coils (Right and Left Form)

3) 「かみ手」: 両手頭上あげ
kamidi



1

2

3

4

5

6

「素手かみ手」 kamidi (貫花踊り、武富節参照): 両手こね回し上げ

3) The "kamidi" with bare hands

Tsukimite

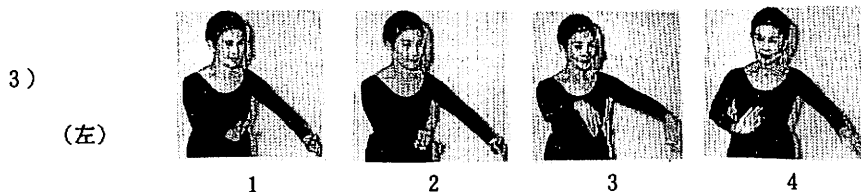
「こねり手：体前から体側へ：左月見手、右月見手：両手体側こねあげ」



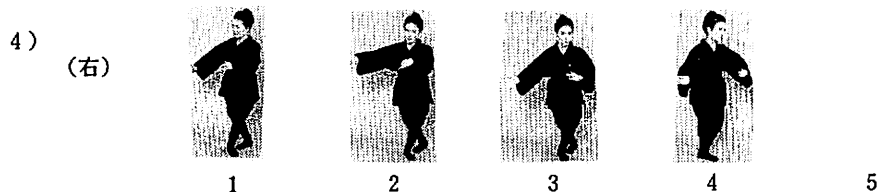
体前片手こねり (浜千鳥参照)



“月見手” chi chi mi di (浜千鳥参照)



体側での両手
こねり横上げ
(浜千鳥参照)



左まわり

The “Tsukimite” — 1) thumb and forefinger together, 2) hand up at eye level,
3) twist the wrist and 4) palms showing up.

The “tsukimite” using left hand

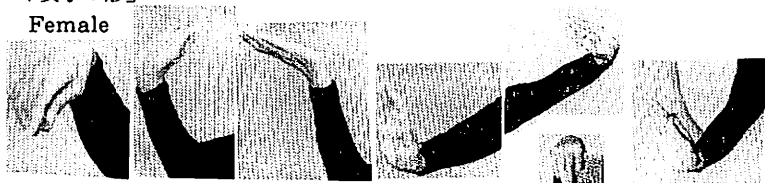
The “tsukimite” using right hand

Side to side “konerite” in front of the body

MALE AND FEMALE HAND FORMS

「女手の形」

Female



手首まげあげ

押しあて

手のこねり、手首まわし



人差指と親指結びあげ、下ろし



手の平開き、押し下ろし



手のこねり、指まげ



1

2

3

4

5

手のこねまわし、指まげ

「男手の形」
male



“あて”

こぶし握り手



こぶし握り両手交差頭上あげ



(かいぐり)
両手開き交差



こぶし握り前方突き出し



こぶし握り両手体前交差



両手開き下構え



こぶし握り横開き



開きあげ手・帆かけ手

男女の踊りの手の形と技法

- a) Female Hand Form on Waist — bend the wrist inwards then place on waist
 - b) Male Hand Form on Waist — place hand with stretched fingers on waist
- THE “TSUKIMITE” — 1) hand up at eye level, 2) thumb and forefinger together, 3) twist the wrist and 4) palms showing up.

HAND KONERITE FORMS

- a) 2 Handed “Konerite” Form
 - 1) raise bended arms vertically with hands at eye level and palms slightly diagonal in form
 - 2) join middle finger and thumb
 - 3) twist the wrist at 90 degrees and lower a bit
 - 4) raise hands with palms showing up
 - 5) lower hands on stretched arms as is
- b) Right Hand “Konerite” Form
 - 1) place left hand on waist using the female hand form
 - 2) do the “Konerite” with the right hand
- c) Left Hand “Konerite” Form
 - 1) place right hand on waist using the female hand form
 - 2) do the “Konerite” with the left hand

FEMALE HAND FORMS

“Konerite” with fingers flexed

“Konerite” with fingers flexed

“Konerite” with rotating wrists

Hand Raise Form

Stretched Hand Form

“Tsukimite” form, thumb and forefinger together (up, side down, forms) bended wrist outwards with palms showing up, stretched up and down as is

MALE HAND FORMS

The “Kobushi” — grasped hands

The “Kobushi” on diagonal form

The “Kobushi” on a side body form (1 hand)

The “Kobushi” on a crossed hand inverted form

The “Kobushi” on a front body form

The “Kobushi” on a crossed hand alternate form

The “Kobushi” on a side body form (2 hands)

The “Kobushi” on a hand thrust form

The “Kobushi” with one hand stretched to side and the other near forehead

Crossed hands on alternate form

Stretched hands up with palms down

9. 沖縄の踊りの区分と種類

沖縄の芸能の分類については、研究者諸氏の検討がなされてきているが、本稿では、踊りという立場からその区分と種類の概要を記することにした。

沖縄の踊りを次のように示すことができる。

- (1) 豊作を祈願し、悪霊を払うなどの信仰や農耕行事と関連して発生したもの（シヌグ舞など）
- (2) 仏教、盆行事と関連して発生したもの（七月エイサー、豊年踊りなど）
- (3) 諸国から移入されたもの（大陸系の「打花鼓」南方系の「南の島」京都伝来の「京太郎」など）
- (4) 各種の民謡踊りと童うた踊り
- (5) 琉球王朝時代の御冠船踊りとして作られた古典舞踊
- (6) 明治期に主として作られた庶民的な雑踊り
- (7) 戦後、各舞踊家によって作られた創作舞踊(1)(2)(3)は各地域に伝承されている民俗芸能とよばれるもの
 - (4)は民謡、童うたと称されるもので、新作劇や童うたに振りつけられた踊り
 - (5)(6)(7)は、舞台芸術として舞踊家によって踊られる琉球舞踊と呼ばれるもの

10. 琉球舞踊の種類

舞台芸術として舞踊家によって踊られる琉球舞踊については、「芸術祭運営委員会」¹⁹⁾などによってその区分と種類が検討されてきている。故島袋光裕氏によれば、「歴史的に舞踊を分類したりすることがなされていなかった。現在まで踊られて来た踊りは、題名ははっきりしているがそれをどのように分類し、区別するかは非常に困難なことである。但し、古典舞踊の場合は例外である。」と述べている。

本稿では現存する琉球舞踊という立場からその種類を次のように示した。

- (1) 古典舞踊：主として琉球王朝時代の御冠船踊りとして作られたもの
 - 老人踊り：白髯の老翁が寛衣に広帯、頭巾をかぶり扇を手にして「かぎやで風節」で踊る「かぎやで風」(Kajadifū)

- 若衆踊り：振袖に引羽織を着て半向頭巾を当て、花かんざしを挿し、扇を持って踊る。若衆こてい節(wakashu kutibushi)「四季口説」(shiki kubu chi) など
 - 女踊り：紅型衣装に髪を後に下げ、髪飾りを挿し、素手あるいは花笠をかぶり、花笠を持ち、糸巻き、団扇、貫花、花かご、稲穂、四つ竹等を持って踊る。「作田節」(chikutenbushi)「伊野波節」(nufabushi)「柳」(yanaji)「天川」(amakā)「本貫花」(mutunuchibana)「かせかけ」(kashikaki)「本花風」(mutu hanafu)
 - 「芋引」(ufubichi)「四つ竹」(yuchidaki)「本嘉手久節」(mutukadikubushi)「稲まづん」(unimajin)「瓦屋節」(karayabushi)「女こてい節」(wunnakutibushi)「醜童」(仮面踊り)(shundō) など
 - 二才踊り(nisēudui)：黒または黒紋付に白鉢巻、紫マンサージュをしめ、カタカシラを結い、編笠をかぶり、脚絆をつけ、扇、ぜい、杖を持ち、又は素手で踊る男踊り。「上り口説」(nubukuduchi)「下り口説」(kudaikuduchi)「ぜい踊り」(zei)「高平良万歳」(takadēramanzai)「波平大主道行口説」(hanjaufu nushimichiyuki kuduchi)：「八重瀬の万才」(yeginumanzai)「前ぬ浜」(mēnuhama) など
- (2) 近代舞踊：主として明治期以後に作られた庶民的な踊り(雑踊りと称している)
 - 雑踊り(zoudui)：古典舞踊に対して俗にアングラーモーイと言われてきた庶民の女性たちの踊りで、かすり、芭蕉布などの着物をつけ、素手またはむんじゅる笠を持ちあるいはかぶり踊られてきたもの「かなよー」(kanayō)「汀間当」(tīmātū)「月の夜」(chichinuyū)「浜千鳥」(chijuyā)むんじゅる(munjuru) など。
 - 「花風」(hanafū)「取納奉行」(sunubujō)「貫花」(nuchibana)
 - 「かなよー天川」(kanayōamakā) など、男女で踊る打組踊り
 - 「谷茶前」(tanchamē)「川平節」(kabirabus-hi)

「仲里節」(nakazatubushi)

- 「金細工」(kanjekū) 「越来節」(guikubuhi)
「馬山川」(bazangā) : 喜歌舞踊
- 「鳩間節」(hatomabushi)
- 「鼓ばやし」(chijinbēshi) 「あやぐ」(ayagu)
- 「秋の踊り」(akinoodori) 「四季口説」(shikikuduchi) : 日本の共通語で歌われる踊り

- (3) 創作舞踊 : 主として戦後の琉球舞踊家によって振り付け、創作されたもの。「獅子舞」(shishimai) 「久志の若按司道行口説」(kushinuwaka ajimichiyukikuduchi) 「パーランクー」(pārānkū) 「糸満乙女」(itomanotome) 「美童」(miyarabi) 「わたんじゃー」(watanjā) 「小浜節」(kubamabushi) 「海ぬチンボーラー」(uminuchinbōrā) 「葉かんだー」(fakandā) 「若衆揚口説」(waka shuagi kuduchi) 「美童」など。

以上のように舞台上で踊られる踊りの種類をあげることができよう。

また、沖縄の踊りを次のように示すことも可能である。

- ① 老人踊り (1人又は2人)
- ② 若衆踊り (1人又は2人)
- ③ 女踊り (1人又は2人)
- ④ 男踊り (1人又は2人)

※組踊中の踊りが独立したものなど

- ⑤ 雑踊り (1人又は4人) : 男女
- ⑥ 男女打組踊り (2人の男女)
- ⑦ 大和風な踊り (1人又は2人)
- ⑧ 組曲踊り (5人)
- ⑨ 物語踊り (2人又は3人)
- ⑩ 喜歌踊り (2人又は4人)
- ⑪ 総踊り (集団)

※劇中の踊りが独立したもの

- ⑫ 創作舞踊 (1人又は2人以上)
- ⑬ 民謡踊り (1人又は集団)
- ⑭ 童うた踊り (1人又は集団)

沖縄の年中行事概観一覧表 ～ ①

旧暦月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
国頭	元日 初起こし 三日の節句 七日の節句 初年日のお願 生年祝 十六日又はミーサ トシバン正月 二十日正月	初集り 二十日正月 彼岸祭 麦穂祭	島くさらし 清明祭 お重びらき 三月三日	アブシバレー	五月大御祭 ウマチー	六月御祭 フチマチ (六月の稲の大祭) (ミーメー)	米寿の祝 エイサー ウーケイ ウンケー 七夕
中頭	元日 初起こし 水撫で 七日の節句 十六日祭 二十日正月	初ウマチー 彼岸祭 浜御願	龍宮祭 清明祭 三月三日	アブシバレー	原山勝負 ハーリー	シヌグ祭り (稲穂の祭り) 十五日ウマチー 六月二十五日	
島尻	初起こし 初寄合い 初拝み	二十日正月 十六日 田のお祝 ナンカヌスクー (一月七日)	龍宮祭 二日お祭り シマクサラシ 土帝君の祭	清明祭 三月三日	アブシバレー	お祭り 獄のぼり ユッカヌヒー (五月十五日)	アミシ カシチー 虫払い 六月ウマチー
那覇	元日 初起 火の神迎え 七日の節句 十六日又はミーサ	初お願 生年祝い 二十日正月 十六日又はミーサ	御水無 清明祭 三月三日 三月麦の御祭	アブシバレー	砂糖屋の御願 アブシバレー	五月ウマチー たんごの節句 爬竜船 ユッカヌヒー	六月ウマチー 六月カシチー 稲の祭
久米島	元日 生年祝 四日初起し	二十日正月 十七日 十六日 七日	清明祭	虫払い	初穂祭 爬竜船 (シツマ)	稲大祭	
沖縄県内総欄	七日 三日 四日 七日 十三日 十六日 二十日	正月飾り 初起こし 竈神下降 七日のしく 生年祝 後生の正月	三日 三月三日 麦大祭	腰 腰憩い 畦払い(アブシバレー) ムスイ折目	四日 五日 五月五日 五月四日	十四日 網引き	稲の大祭 シヌグ サーザイユエー

※沖縄の年中行事と祭り芸能との理解を深めるための資料として、年中行事概観一覧を添付した。

沖縄の年中行事概観一覽表 ～ ②

8 月	9 月	10 月	11月	12 月
八月十五日 柴指(シバサン) 彼岸祭り (ミジマチー) (ジュエグヤー)	九月の大御願 カウガミ 菊酒の節句	(タントイ) 種子取り 十月の衣替え	トンジー ウンネー	年の夜 解き御願 奥餅
七夕 お盆	トーカチ 柴指 八月十五夜 彼岸祭り	妖火日 シヌグ祭り 妖火日	種取祝	なし 大晦日 海御願 島くさらし 冬至 ムーチーの日
七夕	網流し カシチー シバサン ヌーバレー ウーケイ ウンケイ エイサー	白露のお願 秋の彼岸 八月十五夜 トーカチ ヨウカビー シバサン	菊酒 お金の御願 カマ廻り カヤモーのお願 種取り (タントイ)	冬至 ヌーチヌ寄合 (トンジー) 大晦日 お願ほどき 門の御願 ムーチー
泊大綱引 七夕 孟蘭盆	柴差し 米寿のお祝 神拜み 十五夜 彼岸	菊酒 種子とり 崎樋様み	火松のお願	冬至 籾祭り フーチュー (トンジー) 大晦日 お願解き かまど祭 鬼餅
七月盆祭	八月カシチー (柴差し) 十五夜	菊酒 稲種まき (タントイ)	なし	冬至 鬼餅
豊年祭り 七日 十五日 十六日	八日 十日 十一日 十五日 十五日 十五日	菊酒 寺参り 秋の原山勝負	種とり 廻り	三十日 年の夜 二十八日 血煎り 二十四日 願解 奥餅 八日 アミドシ いもない折目 冬至折目 イサイホー

付記

沖縄の伝統芸能を教材化し、学習過程の体系化と舞踊教育の一環として、その学習内容と方法を検討するための序章として本稿を報告したが、学習過程をさらに具体的に明確にしなから、教材論、学習論、指導論、作品論を今後すすめることにしたい。

文 献

- 1) 沖縄美術全集刊行委員会 沖縄タイムス社 (1989)
- 2) 琉球びんがた歴史と技法 琉球びんがた事業協同組合 山陽印刷 1987
- 3) 芸術祭運営委員会 芸術祭総覧 沖縄タイムス社 1963
- 4) 琉球古典舞踊の型 芸術祭運営委員会 沖縄タイムス社 1976
- 5) 中山盛茂編集 琉球史辞典 琉球文教図書株式会社 1969
- 6) 沖縄県工芸振興センター 沖縄の伝統工芸新報出版印刷 1979
- 7) 真栄田義見 三隅治雄 源武雄 沖縄文化史辞典 東京堂出版 1972
- 8) 宜保栄治郎 琉球舞踊入門 那覇出版社 1979
- 9) 沖縄伝統芸能の会 琉球舞踊一鑑賞の手引—沖縄県商工労働部観光・文化局文化振興課 1985
- 10) 陳武雄 台湾民俗文物図録 中華民国 70年6月 台中市立文化中心収蔵
- 11) 山内盛彬 民俗芸能全集Ⅲ 琉球の舞踊と護身舞踊 民俗芸能全集刊行会 1963
- 12) 三隅治雄 沖縄の芸能 邦楽と舞踊刊 1969
- 13) 与那覇政牛 ふるさとの歌 南西印刷 1962
- 14) 金城光子 沖縄の民俗舞踊に関する研究—運動表現特質について— 第24回九州体育会抄録 1974
- 15) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研究—古典女踊りについて— 第26回日本体育学会抄録 P194 1975
- 16) 芸術祭運営委員会 芸術祭総覧 沖縄タイムス社 1963
- 17) 石野径一郎 琉歌つれづれ 株式会社 東邦書房 (1973)
- 18) 金城光子 沖縄の民俗舞踊に関する研究—運動表現特質について— 第26回日本体育学会抄録 P194 1975
- 19) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研究(1) —古典舞踊「かぎやで風」について— 琉球大学教育学部紀要 第19集第2部 pp51~67 1975
- 20) 金城光子 沖縄の踊り(1) —古典舞踊「かぎやで風」— 舞踊譜体系化をめざして— 琉球大学教育学部紀要 第19集第2部 pp88~72 1975
- 21) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研究(2) —古典舞踊「諸屯」について— 琉球大学教育学部紀要 第20集第2部 pp117~162 1976
- 22) 金城光子 沖縄の踊り(2) —古典舞踊「諸屯」— 舞踊譜の体系化をめざして— 琉球大学教育学部紀要 第20集第2部 pp163~209 1976
- 23) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研究(3) —男踊りについて— 第29回日本体育学会大会号 P182 1977
- 24) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研究(3) —古典舞踊「高平良万歳」について— 琉球大学教育学部紀要 第21集第2部 pp33~96 1977
- 25) 金城光子 沖縄の踊り(3) —古典舞踊「高平良万歳」— 舞踊譜の体系化をめざして— 琉球大学教育学部紀要 第21集第2部 pp97~158 1977
- 26) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研究(4) —古典・女踊り「伊野波節」について— 琉球大学教育学部紀要 第27集第2部 pp213~245 1984
- 27) 金城光子 沖縄の踊り(4) —古典舞踊・女踊り「伊野波節」— 舞踊譜の体系化をめざして— 琉球大学教育学部紀要 第26集第2部 pp73~124 1983
- 28) 金城光子・花城洋子 舞踊動作の表現リズムに関する研究 —琉球舞踊とインド舞踊

- のEMGパターンについて～ 琉球大学教育学部紀要 第23集第2部 pp61～83 1979
- 29) 金城光子・花城洋子 舞踊動作の表現リズムに関する研究〔Ⅱ〕～琉球舞踊・日本舞踊・インド舞踊の筋放電及び呼吸パターンについて～ 琉球大学教育学部紀要 第24集第2部 pp50～60 1980
- 30) 金城光子・花城洋子 アジアの民族舞踊に関する比較舞踊学的研究～舞踊動作の表現リズム〔Ⅲ〕～琉球舞踊・日本舞踊・インド舞踊の筋放電及び呼吸パターンについて～琉球大学教育学部紀要 第25集第2部 pp49～91 1981
- 31) 金城光子 沖縄の踊りの形式について 第25回 九州体育学会抄録 P58 1975
- 32) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研究～古典女踊りについて～ 第26回日本体育学会抄録 p194 1975
- 33) 東京国立文化財研究所編 改訂標準日本舞踊譜 創思社 1960
- 34) 金城光子・大城宣武 東南アジア民族舞踊の印象空間；I 琉球大学教育学部紀要 第28集第2部 pp67～88 1985
- 35) 金城光子 琉球舞踊の要素評定による認知体系 日本体育学会第30回大会号 p175 1979
- 36) 舞踊の鑑賞構造に関する研究〔Ⅴ〕～舞踊要素評定による琉球舞踊の認知体系 琉球大学教育学部紀要 第24集第2部 pp65～75 1980
- 37) 金城光子 舞踊の鑑賞語・評価語～琉球・沖縄舞踊の鑑賞語 琉球大学教育学部紀要 第17集第2部 pp201～224 1973
- 38) 金城光子編 学校における沖縄の踊り 沖縄の踊り教材研究会 サン印刷 1980
- 39) 金城光子 舞踊における美への視点 九州大学出版会 1988
- 40) 金城光子編 沖縄の踊り～教材化の方法を求めて～ 沖縄県女子体育連盟 コロニー印刷 1988
- 41) 金城光子 琉球舞踊 I II III IV 沖縄協会 第8回沖縄研究奨励賞受賞論文集 1986
- 42) 金城光子 琉球舞踊譜(1) ～譜語と記号～ 琉球大学教育学部紀要 第37集第2部 1990
- 43) 金城光子 琉球舞踊譜(2) ～かぎやで風譜～琉球大学教育学部紀要 第37集第2部 1990
- 44) 金城光子 琉球舞踊譜(3) ～古典舞踊かぎやで風 女踊り・老人老女踊り譜～ 琉球大学教育学部紀要 第41集第2部 1992
- 45) 金城光子 琉球舞踊譜(4) ～男踊り・上り口説譜～ 琉球大学教育学部紀要 第41集第2部 1992
- 46) 金城光子 琉球舞踊譜(5) ～女踊り・かせかけ譜～ 琉球大学教育学部紀要 第42集第2部 1993
- 47) 金城光子 琉球舞踊譜(6) ～女踊り・天川譜～ 琉球大学教育学部紀要 第42集第2部 1993